

初小だより

㊦㊦はつらつした子 ㊦やさしい子 ㊦まなぶ子

「機転の利く子供」の育成

平成30年12月21日

第21号

壱岐市立初山小学校 文責：校長 山川 祐司

平成30年度 第2学期終業

本日、12月21日（金）をもって、今年度の第2学期を終業いたしました。今学期も保護者の皆様、地域の皆様方には、大変お世話になりました。衷心より、厚く御礼申し上げます。

さて、この2学期子供たちはよくがんばりました。9月、10月、11月、12月と4か月、登校した日数は76日です。9月には運動会、10月には5、6年生の稲刈りや脱穀、6年生の7校交流会、3、4年生の鏡岳大祭がありました。全校的にはウォークラリーがありました。11月には学習発表会、12月に入ると小学生駅伝大会があり、11位でした。持久走記録会ともちつき会がありました。人権フェスティバルで5、6年生がすばらしい演技をしました。さらに、今学期は文化面や体育面で多くの子が賞をもらいました。28名全員がとてがんばった2学期だったと思います。

毎年度6年生を対象に行われている「全国学力・学習状況調査」の上位を占める秋田県、石川県、福井県と長崎県はほぼ同じ環境ですが、長崎県は上位に上がりません。様々な要因があるのですが、秋田県は前向きな取組が成功しています。福井県は体育を中心に鍛えています。石川県の教職員はいつも笑顔でやらされ感がないそうです。私は、これらのことを常に念頭において学校経営をしています。さらに、温かな家庭や地域があつてこそ、子供たちは自己肯定感を高め、すくすくと伸びていくものだと思います。お陰様で、子供たちは学力を含め、全般的に順調に伸びています。

来学期も変わらぬ御支援や御協力をお願い申し上げます。

人権フェスティバルから得られたもの

前回号でもお知らせしましたが、12月16日に人権フェスティバルが行われました。

初山地区の方もたくさん参加されていました。本校5、6年生によるアトラクションでは、「人間にとって最も大切なものは、金や名声ではなく、心である」ということを表現し、感動を与えました。他にも、中学生の作文発表や郷ノ浦中学校のアトラクションもありましたが、メインは、清水寺 森清範貫主による揮毫式と講演でした。森清範貫主は、今年の漢字「災」を揮毫された方です。当日は、「笑顔」と「心」を揮毫されました。講演の演題は、「心のすがた」でした。内容を少し紹介します。

「心のすがた」

- 心次第で、遺伝子も変わる。
- 「思考に気を付けなさい。言葉に出ますよ。・・・。」
思考→言葉→行動→習慣→性格→運命（マザーテレサ）
- 心＝蔵
- 自我は否定されると出てくる、肯定されると出てこない。
- 相対の世界から絶対の世界へ（譲る心）
- 心の方向転換のための宗教 絶対的な価値＝命、生きてること（トルストイ）
- 見えないものへの感謝の心を

5、6年生の劇を解説していただいたような御講演でした。

ありがとうございました。

<ベルマークを頂きました>
山内礼子様、山口幸彦様

<エコキャップを頂きました>
長島初山郵便局長様
大久保結貴さん御一家

ありがとうございました。

壱岐市社会福祉協議会からマスク1箱を寄贈して頂きました。

良いお年をお迎えくださいませ